

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101052		
法人名	(株)角八雲園		
事業所名	グループホーム ウェル・アイ		
所在地	島根県松江市山代町421-1		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	平成26年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	平成25年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『笑顔あふれる陽だまりの家』をキャッチフレーズに、職員はご利用者のその人らしさを大切にしながら、常に思いやりの気持ちで接遇しています。ご利用者のつぶやきや表情、行動から個々の思いを汲み取り、ともに暮らす仲間として、日々の生活を大切にしています。時にはのんびりと散歩を楽しんだり、食材の買い出しに出かけたり、遠足や旅行にも行きます。地域の方々の協力で毎月開かれる、歌の会や体操の会、ボランティアの方の来所も皆様大好きです。また、夏祭りや敬老会、運動会などの各行事にはご家族様や運営推進委員様の協力があり、地域に開かれた運営に配慮しています。職員は各行事をご利用者と相談しながら準備を進めます。そんな日々、ご利用者から多くの事を学び、互いに尊重し、支え合う信頼関係を築き「安心と尊厳のある暮らし」の提供を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域の中で「その人らしく」暮らせるように開設以来地域との交流に力を入れ、防災に対する協力体制の強化を行うなど、さらに協力関係や理解が深まるよう取り組んでいる。職員は常に積極的に事業所の有り様を探り、さらなる向上を目指して職員全員で工夫したケアを行っている。利用者の「その日したいこと」「出かけたい所」など希望を聞き、「気持ちシート」「チェックシート」で情報を共有し意向に沿った支援をしている。利用者はボランティアと趣味活動を楽しんだり、職員と集めた材料で自分のペースで季節の飾り物作りをしたりと楽しみながら暮らしている。運営推進会議では、テーマを決めて活発に意見交換を行い、防災訓練の学習会をしたり、相談員やボランティアからケアの気づきを伝えてもらい課題を話し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は毎年度末共働で理念の見直しを行い共有している。職員は、地域との関わりの中でご利用者一人ひとりが尊厳を保持し安心して生活できるよう、現状を事務所に掲示し、いつでも見れるようにしている。	年度末に見直し全職員で共有している。日々話し合い、確認しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	幼児招待、夏祭り開催、サンタクロースのプレゼント等の行事や各種研修のご案内等を通じ、ご利用者は日常的に地域の方と交流している。	日常的に行き来する関係が築かれていて、夏祭りなどの行事には多くの地域の人の参加がある。利用者が積極的に地域の人と関わられるように工夫して支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞『陽だまり』の発行や日頃の交流を通じて、認知症理解や支援方法を発信している。中学校の体験学習や専門学校の実習を受け入れ、青年の認知症理解に貢献し、近隣者からの相談も随時受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価結果やサービス状況の報告をすると共に、各委員の意見や要望が出され積極的に協議されている。各会ごとに設定したテーマに基づく議論も活発で、得た意見をサービスの向上に活かしている。	年間防災計画、地域交流の現状などを伝え、月テーマを決め今後の取り組みに反映できるように話し合い、意見交換している。災害時マニュアルの見直し、避難誘導時の車椅子操作の学習会を行った。利用者も参加し発言している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段から市の担当者や包括支援センターと密な連携を保ち、問題や課題の解決を図っている。認定更新時には同席し、ご利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝えている。	日頃から事業所の様子を伝え問題、課題について話し合っている。より良い運営推進会議となるよう他の事業所との交流の機会を担当者に依頼している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの方針であり、日中玄関の施錠はしない。職員はマニュアルを周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。布団のずり落ち防止にベット柵を用いる場合でも、ご家族とよく話し合った上で実施している。	外・内部研修で全職員が共通認識できるよう学習している。基本マニュアルの見直しや、「言葉の暴力について」などテーマに沿って話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修し、身体的虐待はもとより心理的虐待への理解を深め、事業所内での虐待が見過ごされることが無い様注意を払い、全職員で、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なケースがあれば、管理者が中心となって各方面と協議し支援につなげる方針だが、今のところ実例が無い。職員には、研修会参加等学ぶ機会が得られるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご利用者やご家族に丁寧に説明して不安や疑問を解消し、理解納得を図っている。制度の改正等は都度文書で説明し、理解を得ている。退所時及び利用中に生じた不安や疑問にも丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	想いシートの活用や、言いやすい雰囲気等を常に大事にしており、意見聴取は日常的である。ご家族やご利用者の代表は毎回運営推進委員会へ出席し積極的な意見の表明がある。それらはできるだけ運営に反映させている。	意見、要望を言い易い関係づくりに努めている。訪問時や、家族会を行事に合わせて開催し、忌憚のない意見を聞く機会を設けている。要望から家族会で「延命について」話し合ったこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員の意見や提案を活かす運営方針を持ち、月一回のリーダー会で意見交換をしている。管理者は、日ごろから職員の意見や要望、提案を聞き速やかな対応に努めている。	管理者はケアに携わり日常的に意見を聞いている。職員から積極的に気づき、提案が出され、職員会議、ケア会議で検討し運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室が完備され、休憩時間は勤務帯毎に適切に確保されている。サービス残業なしの方針で、必要に応じた時間外給与の支給がある。懇親会の費用補助等ストレスフリーへの配慮もあり、職員から働きやすい職場との声も上がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修の充実とともに、職員の各力量に応じた外部研修の参加を推進している。復命研修を通じて全職員への周知を図り、新人にはオリエンテーションをはじめOJTによるトレーニングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は小規模ケア連絡会、グループホーム部会等へ参加し同業者との情報交換やネットワーク作りを大切にしている。職員は外部研修の機会に、他施設職員との交流や情報交換をし、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から、面接や情報提供書により、不安や要望を把握している。利用初期は担当職員が一对一で寄り添い、不安を払拭し、安心して過ごせるよう努めている。気づきは全職員で共有しより良い関係づくりに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立って耳を傾け、不安や迷い、困っていることを受容している。要望や情報は速やかにケアにつなげており、本人様の様子を密に伝え、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談では、必要とされているサービスを的確に判断し、必要があれば他のサービスについての情報を提供したり。包括支援センターを紹介する等して適切なサービスの選択を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、相談し合って行事を計画したり、ご利用者と職員は常に協同して生活している。ご利用者から学ぶことも多く、そういった場面で沢山持つよう工夫し、言葉使い等にも配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを受け止め共有し、共にご利用者を支え合える関係を築くために、電話や手紙、面会時を利用して情報の交換をしながら支え合える関係作りを心がけている。月一回、ご家族に向けてホーム便りを発行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問を、職員も一緒に歓迎しお茶を入れてもてなし、関係性を保つための取り持ちを行っている。馴染みのお店や温泉等にご家族も誘って行くことがある。	「ふるさと訪問」を企画し、墓参りや自宅に帰り近所の人と共に過ごしたり、知人と手紙のやり取りをするなど支援している。家族、親せき、友人の訪問を歓迎し、さりげなく間に立ち支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集いの時間には、皆で楽しく過ごすための計画や工夫を行い、孤立者がいない様、傍で説明したりして気配りを行っている。また、気の合う利用者同士でお茶を楽しんだり、助け合っ一緒に家事ができる様に声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の際には面会やお見舞いを行ったり、退所後も家族からの相談にのったりアドバイスを行っている。退所後のご本人様の様子を知らせて下さる事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に会話の中で希望や意向を聴取している。言葉にされない方の場合、表情や態度から思いや意向をくみ取る努力をしている。居室担当者を中心に、ケア会議等で本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、やりたいこと、嬉しいこと、楽しいと感じることなどの思いをくみとり、「気持ちシート」に記録し情報を共有している。コミュニケーションを心がけ、表出しやすい声かけをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者は、既担当支援者からサービス利用経過について情報を得、ご家族や関係者からは生活歴や暮らし方等についての情報を得ている。入居後も職員はご本人との会話の中で今までの暮らしぶり等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、できる事、分かる事、したい気持ち等を明確にするとともに、日々の観察で知り得た情報は、ケア会議や送りノートを通じて全職員が周知し、現状を総合的に理解するよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でのアセスメント後、ご本人、ご家族を交えてカンファレンスを行っている。居室担当者を中心に各々の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成し、モニタリングは都度ケア会議で行っている。	初期計画1か月後に居室担当者が中心となり全職員で検討している。現状に即したプランとなっているか日々見直している。勤務年数の長い職員が多く、情報交換をしながら工夫した内容でプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、毎日の暮らしぶりや眩き、健康状態等について、職員の気づきや工夫を個別に具体的に記入している。職員はいつでもこれを見て情報を共有でき、ケアや計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どうしても都合のつかないご家族に代わって受診に付き添ったり、買い物などその時々のご本人のニーズに合わせて、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体操の会、歌の会、フォークダンスの集い等ボランティア活動を受け入れ、ご利用者に楽しんで頂いている。外出先に地域の大型店舗や公共施設を利用することも多く、都度楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くのご利用者が嘱託医をかかりつけ医に希望し、24時間の対応が得られている。それ以外の場合も、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医の往診があり24時間対応できる体制がとられている。受診時は家族に情報を提供し、家族からも結果の報告がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は非常勤であり、介護職員は日々のかかわりの中で気づきや情報の提供はしているが、共働にまでは至っていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へご本人の情報提供をし、適切な治療が受けられるよう配慮するとともに、早期に退院できるよう協力している。退院時には医療関係者と連携して支援計画を見直している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては意向伺いのアンケートを記入して提出してもらっている。過去において嘱託医他と共協働してターミナル期を支えたことはあったが現在のところ対象者が無いが、マニュアルの周知と方針の再確認をしていきたい。	契約時利用者、家族に意向を聞いている。「最期をここで」と希望する利用者も多くなり、毎年ターミナル研修をしている。状況に応じ医師、家族など関係者と話し合いながら連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の中で心肺蘇生や初期対応の訓練を定期的に行っている。急変時の対応についてもホーム内研修を行う一方、夜間は携帯電話を所持して業務をする等、万が一に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1日を『防災の日』と定めご利用者を含めて防災について話し合い、避難訓練を繰り返し実施している。近隣の協力員体制を整えて、合同防災訓練も行っている。スプリンクラー設置済みであるが、今後は地震対策等の検討もしていきたい。	防災担当者が年間防災計画を作成している。地域防災協力員との連携、研修会、毎月1日を「防災の日」として取組むなど、意識的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライドを傷つけたりプライバシーを損ねるような言動をしない配慮をしている。個人情報保護についても、サービス規程に明示するとともに、研修をして適切な対応を徹底している。	支え支えられる関係作りに努め、利用者から学ぶ姿勢で接している。プライドを傷つけない言葉使いや対応を心がけ、気づきがあれば職員同志確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者の希望や思いを引き出せるよう、言葉や態度に工夫している。意思表示困難者については、表情や態度から察し、何をどうしたいか、何が欲しいか、複数の選択肢から自己決定を促す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課の流れはあるが個々の希望やペース・体調に合わせ、日々その人らしい時間を作るよう工夫して過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服を自分で選んだり、化粧したりしておしゃれを楽しんで頂いている。職員は乱れをさりげなく直したり「素敵ですね」「いい色ですね」等の称賛やアドバイスを行い、身だしなみに対する意欲を失われないよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	落ち着いた雰囲気の中で職員も一緒に食事し、準備も片付けも個々の力に応じて共働して行う。季節感を重視した献立を嚙下力に合わせた形状で、家庭用食器で提供している。希望メニューを取り入れたり、バイキング形式や行事食は特に喜ばれる。	利用者に力に合わせて役割を持ってもらい、買い出しに行ったりメニューの相談をしたり一緒に取り組んでいる。季節の食材でデザート作りをしたり、バイキング形式を取り入れ、楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は柔らかく調理し、個々の状態や習慣に合わせた形状で提供している。水分チェックをして水分量確保に気を配り、種々の飲み物を用意してこまめに促し、喜んで摂取してもらえるよう器を変えたり言葉掛けにも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため食後の口腔ケアを徹底し、一人ひとりの力に応じて介助したり、自分で磨けない方でも取り組んで頂く工夫や、磨きなおしをすることもある。義歯の場合は週一回の薬品洗浄を併用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便リズムやそれぞれの排尿パターンを把握し、さりげなく誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。ご利用者によっては定時誘導の声かけで失敗を防ぎ、できるだけ紙下着への汚染が無い支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、パット使用など検討しトイレで排泄できるように支援している。重度の人にも共有スペースで過ごしてもらう時間をもちトイレでの排泄を支援するなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と解消に向け、日ごろから身体を動かす活動を多く取り入れ、体操や歩行訓練を日課にしている。なるべく薬に頼らず自然排便できるよう、バナナやヨーグルト、牛乳等の食材を取り入れるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後4時からの入浴とし、少なくとも週3回は入浴して頂けるよう支援をしている。浴室は一般家庭用でこじんまりしており、一人づつゆっくりと入浴を楽しんで頂いている。	基本は2日に1回の入浴となっている。入浴日でない日も希望があれば工夫をし対応している。季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯をして楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に休息でき、安心して眠れる環境づくりをしている。日中の活動を十分にすすんで、夜の安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者の服薬状況について周知しており、保管や服薬確認のみでなく、用法や留意点、副作用についても把握に努めている。処方に変更があった場合は、送りノート等で全職員に速やかな周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野で、できそうな調理、裁縫等の手伝いをお願いし、感謝の言葉を返すようにしている。外出や遠足、地域行事への参加等、ご利用者と相談して決め、張り合いや喜びにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも、戸外へ出る機会を作っている。歩行困難者も車椅子を使用し、できるだけ外の空気に触れて頂けるよう、テラスの利用等をして支援している。	散歩やその日の希望を聞きドライブに出かけている。歩行困難な利用者もテラスに出て外気に触れる機会を持つなど支援している。家族と外食したり、自宅に帰ったり、職員と近くの喫茶店に行ったりしている。職員、家族と一泊旅行も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方はご本人が所持され、買い物に同行したり、外出先でお土産を購入したりされている。ご本人の希望があれば、小額でも所持していただき、支払いや買い物していただく経験を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書かれた手紙の投函を手伝ったり、来文書を取り次いだりしている。電話はいつでも自由に掛けられるが、頼まれればダイヤルを回したり、取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには花やご利用者の作品を飾り、心なごむ雰囲気大切にしている。童謡や懐かしい流行歌を流して、居心地よく暮らせる工夫をしている。食堂や居室、浴室やトイレ等常に清潔に保ち、不快な気持ちにならないよう配慮している。	季節感、生活感のある環境作りを行い、花や中学生と作った貼り絵や写真などが飾られている。リビングのテーブルには新聞や雑誌が置かれゆっくり過ごすことができる。デッキでは洗濯物を干したり、ティータイムを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者は一人ソファーでくつろいだり、食卓で気の合う者同士お茶を飲んだり、談笑されたり、テラスで日光浴を楽しんだりして、思い思いに過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、目覚まし時計や手鏡他、日用品等使い慣れた物や、好みの物を持ち込んで頂いている。ご家族が持ってこられた鉢植えや生花を飾られているご利用者も多い。	来訪者と共にお茶を楽しめるようにテーブルや椅子が置かれている。写真や身の回り品など利用者に合わせたものを持ち込んでもらい、利用者、家族の思いで居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は個々のご利用者の、できる力わかる力を把握し、失敗や混乱が生じないように支援している。手順を書いた紙を貼ったり、絵や飾り物で場所を知らせる等して、ご利用者の不安や迷いの軽減のための工夫をしている。		